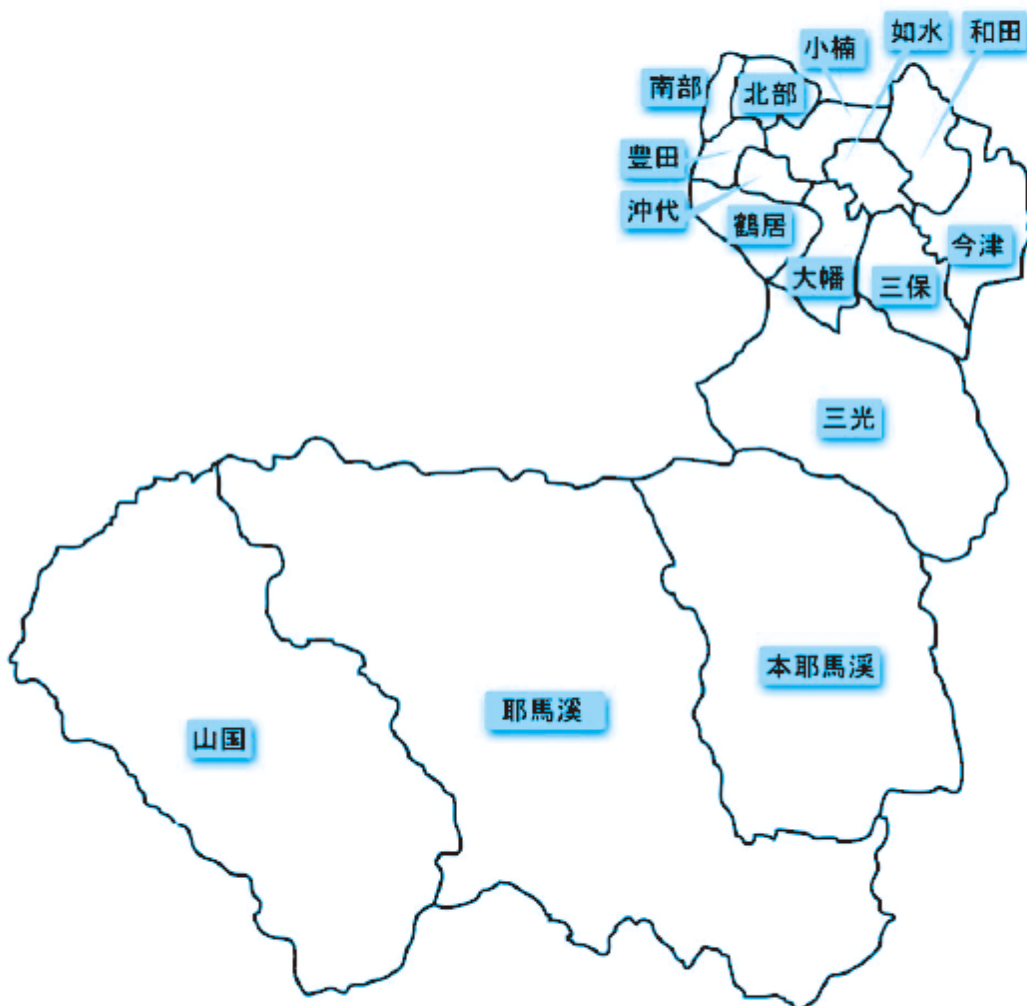


Ⅲ 地域福祉活動計画

第4次中津市地域福祉活動計画

- 地域福祉活動計画とは
- 地域福祉の基本
- 第4次中津市地域福祉活動計画の策定方法
- 「ちいきの“つながり”アンケート」集計結果
- 地域福祉活動計画を進めるポイント
- 各地区計画（15地区）



地域福祉活動計画とは

「地域福祉計画」が、地域福祉をどう進めていくかについて、市の施策を示す計画であるのに対し、地区(生活圏域)に住む住民や地域づくりに関係する人たち同士が、支え合いや関係づくりが基本となる地域づくりについて、何ができるかを住民の取り組みという視点で考え、実践目標と具体的な活動内容を示したものです。

地域の福祉課題の解決のため「住民主体の福祉のまちづくり」を計画的に推進していくことを目的とし、地域住民を中心に関係機関や団体、地域活動者と一緒に、これからの仕組みづくりをまとめた民間の活動・行動計画です。

活動計画は、ひとりひとりの生活者への視点を持ち、地域で考え解決していく福祉課題をもとに作られていますので、新たな福祉課題が生まれたり、状況の変化によって、柔軟に見直しをしていくことも大切です。

地域福祉の基本

「誰もが普段のくらしの中で幸せを感じられる地域づくり」

地域福祉は、住民一人ひとりが地域社会の構成員として、地域の福祉について関心を持ち、自らの問題として意見を述べ、お互いの意見を尊重した合意形成により行動していくことから始まります。

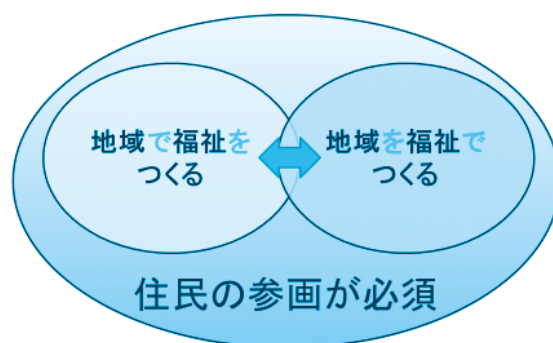
つまり、1人のリーダーによって進めるものではなく、「話し合い」をし、「準備」し、「実践」する過程において、さまざまな住民が関われるような仕組み「調整」が大切です。

住民以外にも行政や福祉機関、企業・団体なども協力し合って地域づくりをしますが、「住民が参画すること」が基本です。



合意形成

地域福祉の推進



第4次中津市地域福祉活動計画の策定方法

中津市では、平成17年の第1次計画策定から市内15地区を生活圏域とし、地区ごとの住民参加のワークショップ（作業部会）を開催し、15地区ごとの地域福祉活動計画を策定しています。

第4次計画は、コロナウイルス感染拡大の影響により、作業部会の開催も危ぶまれたのですが、回数も少なく、時間も短い中、多くの住民の方の意見をもとに計画を作成するために、地区ごとに「ちいきのつながりアンケート」をお願いしました。地域福祉の現状と問題点、課題がわかるよう、ほぼ記述式のアンケートでしたが、中学生から90歳近い方まで1,004名の方に回答いただきました。

アンケートの構成は、第3次地域福祉計画と地域福祉活動計画を振り返る内容となっていると同時に「地域福祉」に係る最近のテーマ（認知症や成年後見、ひきこもり等）を含めた点についてもご意見をうかがうものでした。

このアンケートを通じて、多様な地域福祉課題については、支え合いの基礎となる住民の方の力が必要であることを改めてお伝えする機会とさせていただきます。

この集計結果をもとに作業部会を開催し、それぞれの地区の現状や課題について共有し、住民が主体となって地域の課題やその課題解決に向けた具体的な取り組みを話し合い、今後5年間で取り組む実践目標を決定しました。



「ちいきの“つながり”アンケート」集計結果

☆年齢

中学生高校生	20代	30代	40代	50代	60～64歳	65～74歳	75歳以上	無回答	計
84	11	53	101	96	84	377	188	10	1,004名

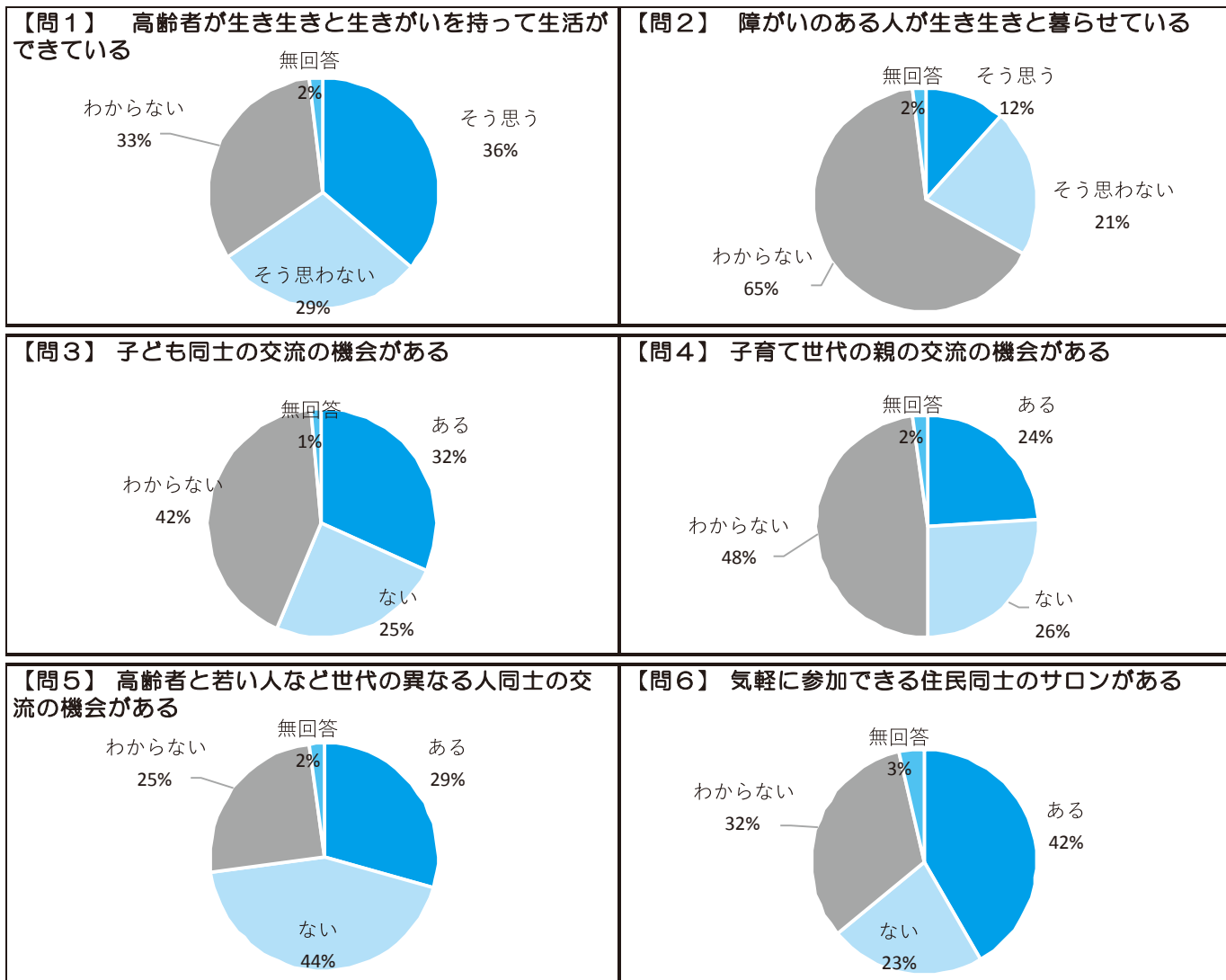
☆性別

男性	女性	無回答	計
427	567	10	1,004名

☆お住まいの地域

南部	北部	豊田	沖代	小楠	鶴居	大幡	如水	三保	和田	今津	三光	相馬	耶馬溪	山国	無回答	計
64	78	49	63	64	71	74	76	56	67	56	45	79	81	80	1	1,004名

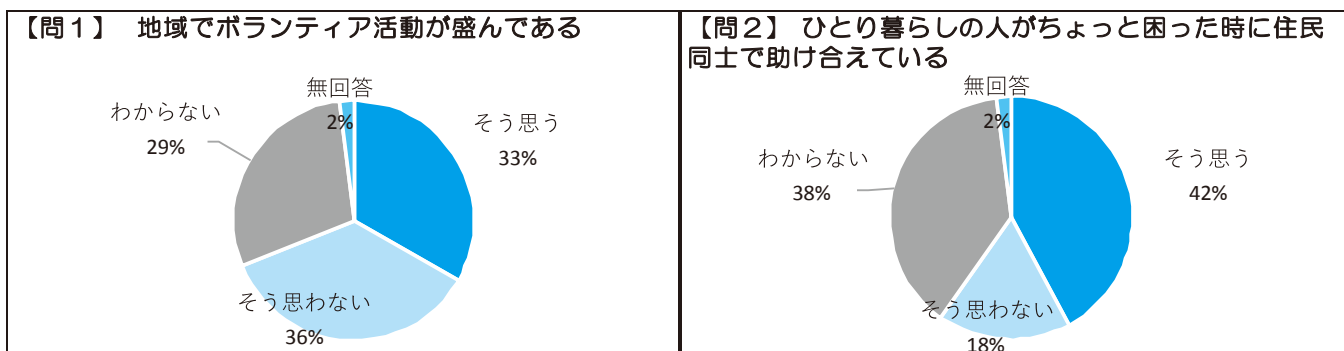
1、生き生きと暮らせるふれあいのまちづくりについて

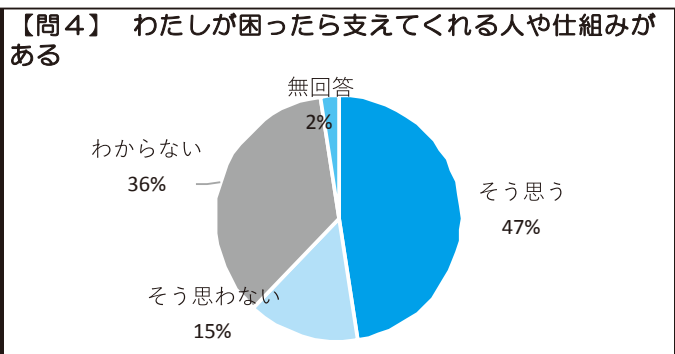
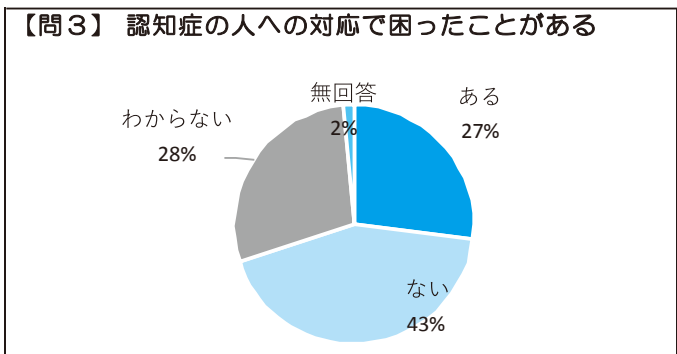


【主な回答理由】

- 地区の老人会や週一体操に参加している
- 作業所や施設へ通うことで人との関わりが
できている
- 学校や子ども教室、サークル活動、子ども会、
習い事、地域行事などで交流
- 同級生の親同士などで交流がある
- 公民館活動を通じて交流がある
- サロン活動が活発
- 隣近所とのつながりが希薄
- 周りの人の障がいに対する理解がない
- 子ども会がない、または子ども会や地域行事に
参加しない
- もともと子育て世代がいない、または関わりがない
- 交流の機会がない。または限られている
- サロンを運営するお世話役、担い手がいない

2、助け合い・支え合いのまちづくりについて

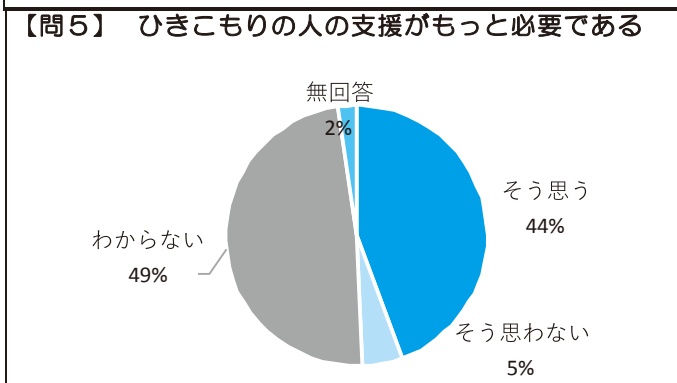
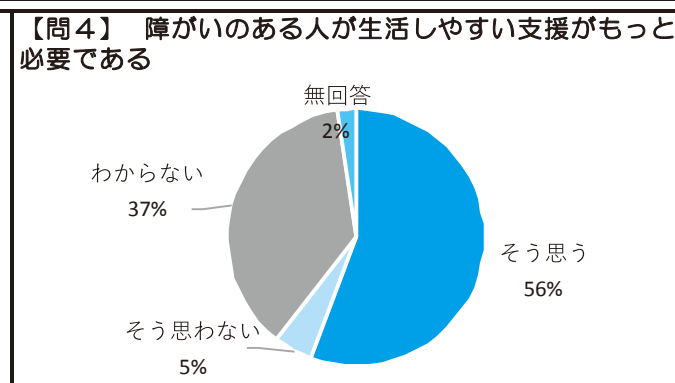
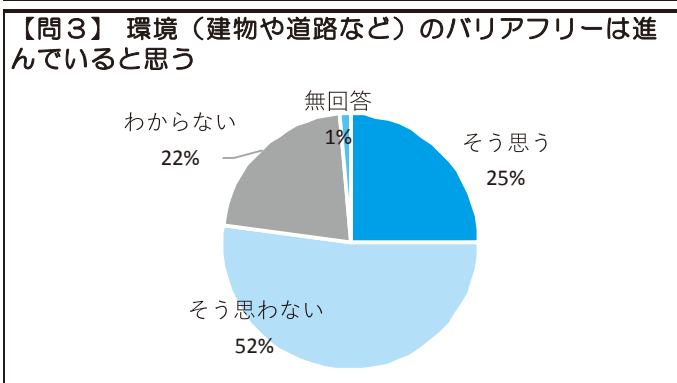
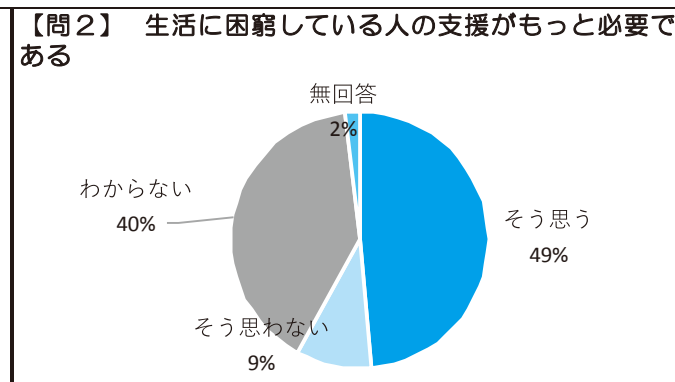
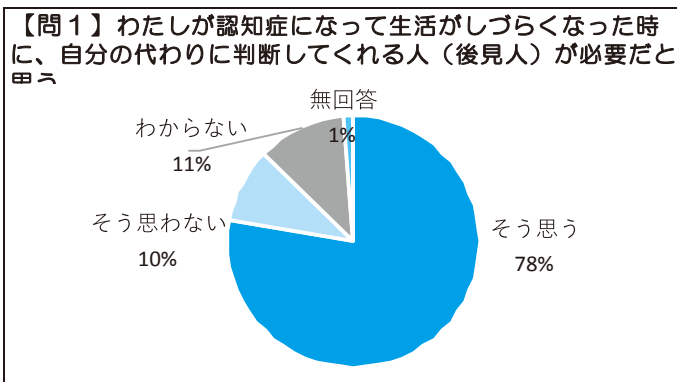




【主な回答理由】

- サロン、週一体操、給食ボラ、読み聞かせ等、ボランティア活動がある
- 住民同士で日頃から気かけ声かけ合っている
- 認知症と自覚していない方の対応が難しい
- 家族が認知症を認めない。理解してくれず協力的でない
- 地域の人の支えがある
- 中心的に活動するリーダーが少ない
- どんなボランティア活動をしているのか知らない
- ひとり暮らしの人と関わりがなく誰が困っているかわからない
- 認知症かどうかわからない。情報として伝わってこない
- 困った状況を伝える方法（相談先）がわからない

3、人にやさしく、暮らしやすいまちづくりについて

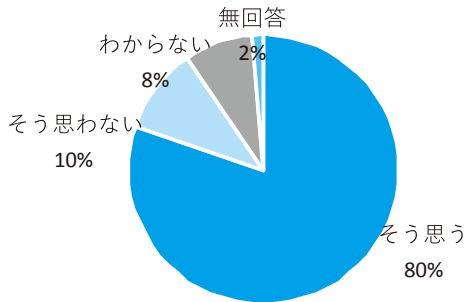


【主な回答理由】

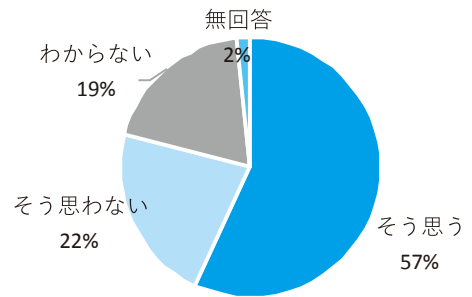
- ・サロン、週一体操、給食ボラ、読み聞かせ等、ボランティア活動がある
- ・住民同士で日頃から気にかけて声かけ合っている
- ・認知症と自覚していない方の対応が難しい
- ・家族が認知症を認めない。理解してくれず協力的でない
- ・地域の人への支えがある
- ・中心的に活動するリーダーが少ない
- ・どんなボランティア活動をしているのか知らない
- ・ひとり暮らしの人と関わりがなく誰が困っているかわからない
- ・認知症かどうかわからない。情報として伝わってこない
- ・困った状況を伝える方法（相談先）がわからない

4、安心・安全・快適に暮らせるまちづくりについて

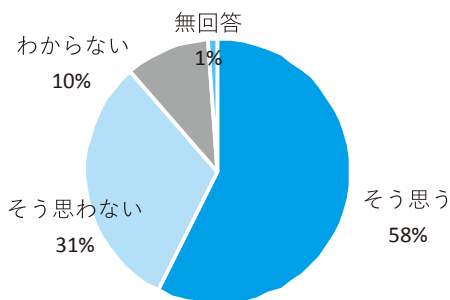
【問1】 災害が起こった時のことを考えると不安である



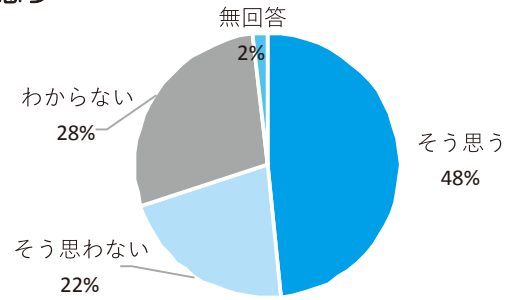
【問2】 地域に空き家が増え、心配である



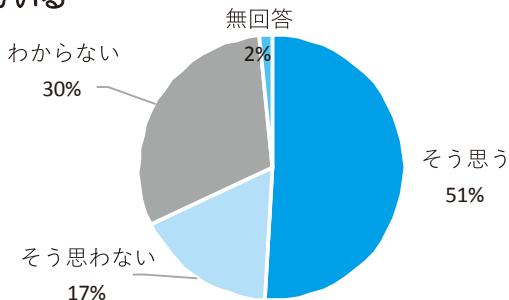
【問3】 ゴミ出しのルールを地域みんなで守れている



【問4】 防犯パトロールなど、防犯の活動がもっと必要だと思う



【問5】 買い物や通院などの交通移動手段に困っている人がいる



【主な回答理由】

- ・自宅がハザードマップの危険地域に入っている
- ・災害時にどう行動すればよいかわからない
- ・空き家の管理者と連絡が取れない
- ・ゴミについてミニ集会を小地域で実施している
- ・防犯活動は必要だが限られた人数、高齢化など困難がある
- ・車以外の交通手段がない（免許返納後は特に）
- ・助けてくれる人がいる。大きな災害は起きないと思う
- ・周りに空き家がない
- ・ゴミ出しのルールを守らない人がいる
- ・どのようにパトロールが行われているかわからない
- ・パトロールでは防犯に限界がある
- ・交通移動手段に困っている方が周りにいないのでわからない

地域福祉活動計画を進めるポイント

住民主体の地域づくりには、作業部会のように、その地域に暮らすさまざまな人が自分たちの地域では、何が問題で、お互いがどのような活動をしていて、問題解決のためには今後どういう協力が必要なのかを話したり、情報共有する「場」が、計画の有無に関係なく、地域福祉を進めていくときには必要です。

中津市では、その「場」を「地域福祉ネットワーク協議会」（以下、ネットワーク）として推進しています。

「ネットワーク」がある地区では、定期的に地域のために様々な視点で活動したり関わっている人が、お互いの情報を共有していますので、地域の様々な暮らしの問題点解決に向けて策定された「地域福祉活動計画」の進み具合（進捗）を確認することも一つの役割となっ
ていきます。

具体的には

- ①実践目標や活動内容を、活動団体や関係機関、地域福祉活動に係る関係者とで共有することで、ネットワークに参加している人たちの意識の啓発に繋がります。
- ②ネットワークで共有することで、活動は「新たなものを生み出す」だけでなく、無理なく進めるためにも、「今ある活動を継続・発展していく」という視点も重要です。様々な人や団体が自分たちの活動としてできることを検討・実践したり、複数の団体で協力し合って検討・実践しながら、その状況をネットワークで共有し、さらに多くの人にネットワークを通じて啓発していくことで広がります。
- ③地域の実情は変化していくことから、年に1回程度、ネットワークで目標の進捗や見直しが必要な場合は話し合っ
て修正していくことも大切です。

